

2026 年 3 月 30 日

ソレイジア・ファーマ株式会社

日本薬学会第 146 回年会における発表のお知らせ

日本薬学会第 146 回年会（2026 年 3 月 26 日～29 日 関西大学千里山キャンパスにて開催）において、当社開発品 SP-04（細胞内スーパーオキシド除去剤「calmangafodipir; Pled0x®」）に関する研究結果が一般口演として発表されましたので、お知らせいたします。

【演題名】

Calmangafodipir による活性酸素種の低減を介した paclitaxel 誘発末梢神経障害の発症抑制

当該研究は、和歌山県立医科大学薬学部医療開発薬学研究室（今井哲司教授）と当社開発本部との共同研究として実施されました。

がん化学療法に伴う末梢神経障害（Chemotherapy Induced Peripheral Neuropathy：CIPN）は、発症機序が十分に解明されておらず、有効な予防薬や治療薬が確立されていない副作用の一つです。本研究では、パクリタキセル誘発性の CIPN に対する calmangafodipir の作用について、初代培養脊髄後根神経節（DRG）神経および感覚神経オルガノイドモデルを用いて検討しました。その結果、パクリタキセル処置により活性酸素種（Reactive Oxygen Species：ROS）の産生が増加すること、また calmangafodipir がこの ROS 産生の増加、ならびに神経軸索退縮および神経活動異常を抑制する可能性が示されました。これらの結果は、calmangafodipir が ROS 産生抑制を介して CIPN の発症進展を予防し得る可能性を示唆するものです。

当社開発品 SP-04（細胞内スーパーオキシド除去剤「calmangafodipir; Pled0x®」）について：

当社は 2017 年に SP-04 の日本、中国（香港、マカオを含む）、韓国、台湾における独占的開発販売権を Pled Pharma AB（現 Egetis Therapeutics AB）より獲得し、がん化学療法に伴う末梢神経障害（CIPN）※を適応として開発しております。

当社は導入元の Egetis Therapeutics AB 社とともに、欧米およびアジア（日本、韓国、台湾および香港）において、オキサリプラチンを含む mFOLF0X6 療法を実施する大腸がん患者におけるオキサリプラチン誘発性末梢神経障害の予防効果を検証する第Ⅲ相国際共同臨床試験を実施致しましたが、主要評価項目は達成されませんでした。

現在は、タキサン製剤誘発末梢神経障害への適応を目指して非臨床開発を進めています。

※がん化学療法に伴う末梢神経障害（Chemotherapy Induced Peripheral Neuropathy：CIPN）
がん化学療法は、悪心・嘔吐や口内炎等の副作用が生じますが、末梢神経障害も重大な副作用の一つに挙げられます。末梢神経障害は、タキサン製剤（パクリタキセル等）、プラチナ製剤（オキサリプラチン、シスプラチン等）、ビンカアルカロイド製剤等のがん化学療法の主要薬剤において、顕著に発現することが知られています。

以上

■お問い合わせ先

ソレイジア・ファーマ株式会社

TEL：03-5843-8049

E-mail：ir_info@solasia.co.jp